

あらくさ

編集責任者：歌房 哲也

〒729-4101 広島県三次市甲奴町本郷11584

生活介護事業所 あらくさ

TEL 0847-67-3410 FAX 0847-67-3439

E-mail arakusa@f2.dion.ne.jp

〒729-4101 広島県三次市甲奴町本郷1215-1

就労継続支援B型事業所 夢工房ねむの木

TEL 0847-67-5051 FAX 0847-67-2080

E-mail arakusa-nemunoki@r3.dion.ne.jp

ふらっと相談支援事業所

TEL 0847-67-5052 FAX 0847-67-2080

E-mail arakusa-flat@r7.dion.ne.jpあらくさホームページ <http://www.pionet.ne.jp/~arakusa>

地域の皆様に支えられて35年

あらくさ共同作業所誕生



【 あらくさ共同作業所開所式 】

「たとえ障害が重くても、住み慣れた場所で暮らしていきたい」「どんなに障害が重くても、持てる力で働きたい」という願いを実現させる趣旨にご賛同いただいた、地域の皆様や関係者のご協力のもと、昭和63年あらくさ共同作業所は誕生しました。

開所当初から、「一人ひとりが主人公の仕事」「やりがいがあり達成感のある仕事をしよう!!」と、下請け作業やアルミ缶つぶしなどに取り組みました。



夢の社会福祉法人化へ・・・

「重度障害のある人を受け入れる」「親亡き後や自立のための暮らしの場」を整備するためには、無認可作業所のままでは困難だったため、社会福祉法人化をする必要がありました。地域の皆様のご支援に支えられながら、粘り強い運動を続けることで、平成9年「社会福祉法人あらくさ」を創設し、「社会就労センターあらくさ（知的障害者通所授産施設）」を開所することができました。さらに平成15年には「夢工房ねむの木（精神障害者通所授産施設）」及び「地域生活支援センターふらっと」などを開所し、様々な作業・活動や、相談支援にも取り組むことができるようになりました。

そして、第1号のグループホーム「にじ色ホーム」や、重度障害者のある人を対象とした「さくらホーム」を開所することができ、障害のある人が働き活動することや、暮らしを支えることができるようになりました。

障害のある人の願いの 実現に向けて！！

あらくさは開所当初から、「どんな障害があっても受け入れる」ことを理念の1つに持ち続けています。35年前では想像できなかったほど利用者が増え、現在70名以上の大所帯になりました。これからも障害のある人の「願い」や「想い」を大切に、日々の実践を続けていきたいと考えています。

これまで支えてくださった地域の皆様には、感謝を申し上げます。そしてこれからもよろしくお願ひいたします。

(担当：岡田)



きらい

～新しい仲間を紹介します



ひらやま かほ
平山 楓萌さん
(夢工房ねむの木)
ねむの木で洗い物
や、お料理頑張ります。

Fight!



もりしげ あきら
森重 明さん
(ウイング班)
健康に気をつけながら、ぼちぼち
仕事をしていきたいです。

障害のある人の家族の想い・・・

～作業所作り運動・社会福祉法人化運動そしてこれから～

令和4年度は、あらくさ共同作業所が誕生して、35年という節目の年を迎えます。そこで、作業所作り運動からあらくさに関わって来られたご家族に、当時の想いや願い、そしてこれからのことなどについて語っていただきました。

高校卒業後の進路・仲間ができた喜び・・・～作業所作り運動～

昔の県北には、障害のある人が学校を卒業した後に働いたり集ったりする場は無く、将来のことを心配していたそうです。そのような時に、甲奴町に作業所を作るという話を聞き、「我が子が高校卒業後に、働く場・行き場ができるんだ!!」と思ったそうです。広島県内の作業所への見学や学習会にも積極的に参加をし、精力的に作業所作りに関わったそうです。当時、全国では、障害のある人の作業所作ができることに対して、近隣住民からの反対運動も多くあったそうですが、甲奴町では地域の人からの沢山の協力を得てあらくさ共同作業所は誕生していったそうです。

高校卒業後、あらくさでの作業を楽しんでいる障害のある人の姿を見て、「仲間がいることや、働く場があることは、こんなにも大切なことなんだ。」と家族としても喜びを感じたそうです。

親亡き後の課題解決に向け・・・～社会福祉法人化運動～

あらくさ共同作業所ができてから10年が経ち、開所時よりも利用する人数はだんだんと増えました。しかし、共同作業は公的な財政の支援は少なく、職員の確保や設備を増やすことは困難でした。養護学校を卒業してくる重度の障害がある人を受け入れるためには、無認可作業所のままでは困難だったことや家族が不安に思っている「親亡き後の課題」に取り組むためにも、社会福祉法人化をする必要がありました。

そこで地域の人や関係する人たちと一緒に、あらくさ共同作業所を社会福祉法人化するための募金活動や要望運動なども活発に行ったそうです。そして1997年に粘り強い運動が実り、待望していた「社会福祉法人あらくさ」が設立されることとなりました。その後、グループホーム「にじ色ホーム」が建設されたことで、家族の不安も少し軽くなったような気持ちになったそうです。

親の高齢化と今後・・・～住み慣れた地域で暮らしてほしい～

「あらくさに通所を始めたころは、私たち親も今よりもずいぶん若かったので、介助も負担に感じることはありませんでしたが、年齢を重ねてくると今まで感じなかった負担も出てきました。体が動く間は支えていこうと思いますが、以前のように体が動かなくなってくるといつまで支えられるか不安になります。だけど、住み慣れた地域で元気に暮らしてほしいという願いは持ち続けています。」と言われていました。

親亡き後、障害のある人の地域生活を支えることを考えると、今ある制度の改善や整備はとても重要だと言えます。この度、作業所作り運動から関わって来られた家族の想いを聞き取ることで、誰も排除されず、安心して暮らすことのできる社会をめざし、私たちも一緒に訴え続けることの必要性を、改めて感じました。

(担当：越智)

2021(令和3)年度 社会福祉法人あらくさ 事業報告及び決算報告

【事業報告】

●コロナ禍2年目のなかでも

令和3年度も新型コロナウイルス感染症（以下コロナ）拡大の影響により、当法人の事業運営も大きな影響を受けました。コロナ禍で来客の減少・移動販売の自粛・下請け作業の減少等により事業収入が減少しましたが、配食弁当に力を入れたり、新たな下請け作業を始めたりと利用者工賃が下がらないよう努力しました。しかし、感染予防対策を優先しなければならず、内部完結の実践にならざるを得ませんでした。令和3年度末には71名の方があらくさを利用されていますが、その内、約22%が60歳以上になり、作業や活動において高齢化に対する配慮をする必要性が出てきました。



（甲奴町宇賀 品の滝にて）

●新施設の建設にむけて

令和2年度に当法人が策定した基本計画を基に検討会議を重ね、令和4年度社会福祉施設等整備費補助金の申請をおこないましたが、助成の対象にはなりません。さらに、ロシアのウクライナへの侵攻により燃料・建設資材・設備価格が高騰した影響で、建設価格が当初の見込みよりも大幅に増えてしまいました。しかし利用者の仕事や活動をさらに充実させるために重要な事業のため、引き続き取り組んでいきたいと思っております。

●障害のある人がより良く暮らして行けるように

令和3年度も人材の確保については大きな課題が残りました。特にグループホームについては、障害のある人にとっての自立の場、親亡き後の問題を解決する場として大きな期待が寄せられています。しかし人材の確保が困難であるが故に、この期待に充分応えることができていないのが実情です。年々、親の高齢化も進み「支える力」が低下していく中で、グループホーム事業の安定化は急務と言えます。

障害がある人たちが地域で安心して暮らしていくために必要な事業を継続・発展させていくためには、必要な人材を確保することはもちろんのこと、職員が一丸となり実践力を高めることで支援の充実を図っていききたいと思います。

【決算報告】

○収入 198,301 千円

(単位 千円)

就労支援事業収入	16,783
障害福祉サービス事業収入	177,546
経常経費寄付金収入	724
受取利息配当金収入	9
その他収入	1,422
施設整備等補助金収入	1,112
積立資産取崩収入	176
その他の活動による収入	529

○支出 184,520 千円

(単位 千円)

人件費支出	117,851
事業費支出	16,710
事務費支出	16,733
就労支援事業支出	26,197
その他の支出	8
固定資産取得支出	6,480
積立資産支出	541

【決算資料の公開閲覧所】 夢工房ねむの木受付

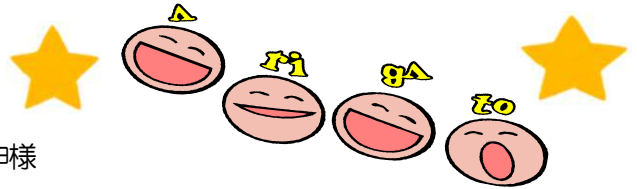
(担当: 秋山)

いただきました

(2022年5月1日~2022年7月31日まで)

野菜・食品・物品等のご寄付

(順不同)



原田禎彦様 藤原靖栄様 高橋信子様 梶谷真由美様 長谷川正伸様

佐々木由美様 落畑さとみ様 山下悦子様 瀬川洋介様 宇賀みちくさの里様 永井克典様 水田豊様

ボランティア

(順不同)

大前みどり様 杉山美鈴様 貞森裕子様 あらくさ友の会様 あらくさ家族会様

いただいた食材は給食等に使用させていただきました。他にも、アルミ缶・紙等の資源回収にご協力いただきました。ありがとうございました。記載もれがありましたら、どうかお許しください。



自分たちで福塩線に乗ってみよう!!

～地域活動支援センターふっとの取り組み紹介～

「地域活動支援センターふらっと」は、地域で暮らす障害のある人を対象に、余暇活動の支援を行っています。これまで、クッキングやスポーツ等の活動の経験を通して、生活の質が向上するように取り組んできました。

去る7月5日には、生活により密着した経験をするを目的に、福塩線に乗車しました。汽車を初めて利用するという人も多く、行先までの切符を緊張しながら購入していました。乗車経験のある参加者は、迷っている人に声をかけ、分からないことを教えるという頼もしい一面も見られました。参加者からは、「緊張したけど楽しかった。」「今度は一人で出かけてみたい。」などの感想が聞かれました。家族からは、「今まで公共交通機関を使うことはなかったから、本人にとっても良い経験になったと思う。」という感想も聞かれ、とても有意義な取り組みになりました。

今後も、障害のある人が豊かな地域生活を送ることができるように、様々な活動を行いたいと思います。



窓口で切符を購入する様子

第45次国会請願署名にご協力 いただきありがとうございました。

第45次国会請願署名にご協力いただきありがとうございました。皆様のご協力により、署名を1,656筆集めることができました。

5月16日に、きょうされん広島県支部を通して国会へ届けました。ご協力ありがとうございました。これからも宜しく願います。

(担当：藤原)

●職員募集●

社会福祉法人あらくさでは、職員として、障害のある方と共に働き、暮らしを支えてくださる方を募集しています。詳細はお問い合わせください。事業所の見学もできます。

～募集内容～

常勤職員・非常勤職員 若干名

～お問い合わせ先電話番号～

社会福祉法人あらくさ：(0847) 67-5051

(担当：国岡)